

空から見た市街地

戦後3倍に膨張

ことは、戦後二十五年を過ぎて、西暦では一千九百七十年代にはいっせいです。この二十五年来、日本は大きく変わり、私たちの町も変化しました。明治以来終戦まで、ほとんど変化を見せなかったといわれる葛塚の市街地も、この二十五間で、大きく広がりました。

この二枚の航空写真は、葛塚の市街地を中心として写したもので、右の写真は現在の姿、左の写真は終戦直後の姿を写したものです。

二枚を比べてみると、市街地は大きく変わりました。終戦直後の写真には、白新線の路盤は見えますが、線路も駅舎も見えません。葛塚停車場山介線も中央線も見えませんが、どこでも、小路を抜ければすぐタンポに突き当たります。そのタンポも、まだ耕地整理をしていません。

現在の写真は、新井中学校、新しい役場、高等学校もできました。新井郷川の流れは変わ

わり、橋もふえました。

昭和二十六年、栄町の宅地造成開始。二十七年白新線の一部開通、三十一年に全線開通。次いで白新町、杉名町、若松町誕生。市街地は、これらを囲んで、さらに拡大しています。

写真の範囲内で、昭和二十二年ころの世帯数は約一千二百、現在は約二千三百五十と推定され、一千五百世帯ほど増加したことになります。この間、豊栄町全体では、二千百世帯ほど増加しました。その半数以上が葛塚の市街地に集中したことになります。また、写真で目測すると、住宅地は三倍以上に膨張しています。

新潟東港、早通開地など、私たちの町は、いままでのいずれの時代よりも大きく飛躍しようとしています。七十年代も終わるころには、この市街地はさらに大きく変わっていることでしょう。



役場の人事

主任発令(一月一日付)
 安達千松(税務課) 渡辺正雪(町民課) 斎藤マツヨ三善治乃、田村ヤエ(以上保健衛生課) 飯島盛雄(建設課) 長谷川長三郎(水道課) 丸山高司、倉島千代乃(以上教育委員会) 小林忠雄(農業委員会)

出そめ式で表彰

恒例の消防出そめ式が、一月六日に行なわれました。出そめ式には、約五百人の消防団員などが参加し、市進行進を行ない、消防長の点検を受けました。その後、会場を葛塚小学校に移し、表彰式を行ないました。この表彰式では、百八十五の個人や団体などが表彰されましたが、そのおもな人は、次のとおりです。

○日本消防協会長表彰
 ・精進章 坂井聖一(十六日) 月。勲章章(三十年以上) 上) 遠藤新六(下大谷内)
 ○新潟県消防協会長表彰
 ・功績章 長谷川正司(内沼) 霜村仁(中島山)
 ・精進章(三十年以上) 遠藤新六(下大谷内)
 ○町長の部外功労章
 田沢一郎(尾山) 佐藤九八(尾山) 上柳田自治会長 長島自治会 野村勲(高森自治会長) 五十嵐平作(自治会長)
 ○消防団長の部外功労章
 本間清(下黒山) 中村豊藏(下黒山) 曾我長(上柳田) 曾我邦夫(上柳田) 栗原幸三(中大口) 小川ステ(福ノ内) 佐藤勝実(山飯野) デンカ生コン工場(内島見)

青少年の意識調査

教育行政の参考に

町の教育委員会では、十六歳から二十歳までの青少年を対象にして、意識調査を行なうことにしました。

これは、新潟市、新発田市などの都市近郊的環境の中で生活する町の青少年が、どのようなことを考えているかを調査して、町の教育行政の参考にしようとするものです。

調査は、無作為抽出のアンケート方式により、次の事項について行ないます。

- ・本人自身に対する意識について
- ・家庭に対する意識について
- ・職場や学校に対する意識について
- ・友だち、グループなどに対する意識について

善行者の激励制度

青少年の非行は、いかにいかに芽を摘み取ってやることも必要ですが、良い芽に養分をやって、若い芽をすくすく伸ばしてやることも必要です。このような趣旨から、この制度は誕生しました。

具体的には、学校・警察など関係団体の通報により、町長、教育委員会、青少年問題協議会連名のながきを送り、善行者をたたえます。また、広報紙に善行者を掲載します。

善行者をたたえる方法として、だれの心にも「悪い芽」とは、ささやかなものですが、「悪い芽」が、いつそれが、その人の善行にむく